

いよいよ大学での授業が始まります。この授業は増田泉が担当します。オンラインのために、シラバスの一部が変更になる場合がありますが、オンラインのメリットを生かして進めていきたいと考えています。
本日のテーマは四角の中に示しました。

テーマ	オリエンテーション
	I 授業の方針
	II 授業の進め方と課題提出
	III 原稿用紙の使い方

コメントの追加 [泉1]: テーマは毎回、このように示します。
 自分が何を学ぶのか、必ず確認しましょう。

I 授業の**方針**

大学では「分かる」から「できる」へ

この授業の方針は、「分かる」から「できる」ようにすることです。これまで国語の時間には読んで理解したことが多いと思いますが、大学では単に分かったでは終わらず、自分でレポートを書き、発表することで学びを深めます。

いろいろな授業のレポートを今後書くこととなりますから、まず、読んで理解したことを書けるようにしましょう。

この授業の注意

この授業の方針は、「分かる」から「できる」ようにすることです。文章を読んで理解し、それについて自分の言葉で発信していくために必要なのは、論理的に書く技術です。書き方の基本から、実際にレポートを書く準備までが学べるよう、演習を多くしています。そのための課題を出しますので、必ず課題を出し、自分の力を高めてほしいです。

成績評価の方法	毎回の課題	30%	毎回の授業参加と授業についての考察提出
	練習小論文	40%	基本の小論文や引用の仕方等についての課題
	レポート	30%	指定された期日に提出 返却なし

提出方法 増田宛にメールで送る。
 送れない場合のみ、学務課へ提出してもよい。

参加することが皆さんの力につながり、成績にも直結します。**必修科目**ですので、途中で諦めることなく、**必ず参加**しましょう。

コメントの追加 [泉2]: 大学では、何のために勉強するのかを常に意識して取り組む必要があります。
 必ず読みましょう。

コメントの追加 [泉3]: 全体で100点になるように採点します。
 だから30%というのは30点になるという意味です。毎回の授業参加と考察提出で30点なので、満点なら1回2点となります。
 逆に考えれば、欠席が5回あれば、どんなに他で満点をとっても90点にしかなりません。出席と毎回の提出は大事です。
 さらに練習用の小論文は4回提出をします。これを1回でも出さないと10点の減点になります。80点をとらないとAはつきませんので、課題提出が重要だと分かりますね。がんばりましょう。

次の5点の注意を守って学習に取り組みましょう。

◇◇◇◇◇◇◇◇

- ① 金曜日5限の開始時間には「文章表現法」の添付ファイルを必ず確認し、授業に取り組む。配信している添付ファイルは一定期間を過ぎると見えなくなってしまうので注意する。
- ② 添付ファイルに示された指示に従って学習を進める。
例)「音読しましょう」と書いてあったら音読する。
- ③ 毎週、何を学んで何が分かったか、または分からなかったかを考察し、提出する。
提出先) i-masuda@nijjima.ac.jp
件名 文章表現法第()回の授業(氏名) ※必ず回数を入れる。
本文冒頭に自分の名前を明記する。
自分の名前の後に、その時間の考察を書く。質問も可。(400字以内)
- ④ 教科書を必ず用意し、線を引いたり、書き込んだりしながら進める。
- ⑤ 提出物は必ず出す。

◇◇◇◇◇◇◇◇

コメントの追加 [泉4]: 開始時間を守りましょう。パソコンやスマートフォンの不具合はよくあることです。
遅刻や欠席をしてよい理由にはならないので、時間には必ず参加できるように準備をしましょう。

コメントの追加 [泉5]: こうした書き方も学んでください。

コメントの追加 [泉6]: 先生には「お疲れ様です」という冒頭語は不適切なので書きません。
名乗ったら、「本日の考察については添付文書の通りです。よろしく願いいたします。」と書きます。

II 授業の進め方と課題提出

- (1) 教科書を手元に置き、授業のレジュメに沿って学習する。
- (2) 課題が示されているところは必ず行う。
- (3) 提出する課題については、空欄のないように記入する。
- (4) 学習が終了したら提出する。
提出先は上記アドレスとし、課題は添付ファイルにする。
添付ファイルはワードで作成し、ワードで保存して添付する。
- (5) 毎回の課題を提出してから四日過ぎても増田から「受け取りました」という連絡がない場合、届いていないことが考えられるので再度送る。
- (6) 毎回の課題の提出期限は毎週木曜日の午後5時とする。
- (7) 練習小論文を書く場合、1行の文字数を40字として入力する。
- (8) 練習小論文の提出期限は指定するので厳守する。
- (9) 授業のレジュメの公開期間は2週間とする。

コメントの追加 [泉7]: 提出について書かれていません。必ず読み、よく理解しましょう。

Ⅲ 原稿用紙の使い方

では、原稿用紙の使い方をマスターしましょう。今までやってきたとは思いますが、やってみると「はじめて知ることがあって驚いた」と言いに来る人がいます。

教科書の「原稿用紙の使い方をマスターする」の頁を開いて読みましょう。

コメントの追加 [泉8]: 教科書は手元にありますか。必ず該当ページを開けて読みましょう。

1 「原稿用紙の使い方をマスターする(1)」

横書きと縦書きでは、句読点を打つ場所が異なります。

パソコン打ちでは自動的に入りますが、皆さんが手書きで書くレポート、編入試験の願書、就職のための履歴書を書くときには注意が必要です。

(1)の2頁目にある、題名の書き方、名前の書き方は、編入試験、就職試験の時に手書きで書く場合に重要になるので、読み飛ばさないで確認しましょう。

課題 A) 次の空欄に適語を入れましょう。() 内に選択肢がある場合は、適語だけを残り、他の語は消しましょう。

コメントの追加 [泉9]: これが本日の課題シートに貼ってありますから、そこに記入していきます。

- ① 原稿用紙に書くとき、「キャベツ」には()マス使う。
- ② 原稿用紙に書くとき、「シャッフル」には()マス使う。
- ③ 「すっかり」と書きたいときに、行の最後の1マスだけが残っていた。その場合、「っ」は()に書く。
- ④ 縦書きの原稿用紙を使う場合、句点はマスの(右上、右下、左上、左下)に書く。
- ⑤ 横書きの原稿用紙を使う場合、読点はマスの(右上、右下、左上、左下)に書く。
- ⑥ 点線は1マスに()の点を入れて書く。
- ⑦ 「！」を書く場合は、()。
- ⑧ 段落を変える場合は()。

なんだ、これは簡単だ!と思った人は、これまでの国語の時間に十分学んでいた人か、教科書をしっかり読めた人です。「原稿用紙の使い方(2)」もこの調子で!

2 「原稿用紙の使い方をマスターする(2)」

ここでは「」『』（ ）の使い方を確認します。
まず、教科書を読みましょう。

「」も（ ）も、横書きと縦書きでは書く場所が異なります。こんな簡単なところは、もし間違えると大学生としてはかなり残念な印象を読み手に与えますから、簡単なところほど、間違えないように確認することが必要です。

論理的文章の場合（皆さんが大学で書く文章はほとんどが論理的文章）、「」を使う場合、改行しませんので注意しましょう。小学生のときに書いた作文のように書く必要はありません。

さらに、書名は『』、論文名、作品名は「」で囲むのも忘れずに覚えましょう。大学生でよく間違えるのが、この使い分けです。

「」で囲んだ中に「」を書く必要がある場合は、『』になります。

課題 B) 次の文章には「」や『』、句読点が抜けています。正しい使い方になるように、書き加えましょう。

夏目漱石の小説を読むのが好きな友人が、先週おもしろい作品を読んだと言っていた。何を讀んだのと聞いたら、坊っちゃんだと教えてくれた。その話なら私も高校生の時に読んでいたので、話の内容について二人でしばらく話をした。

私は今、大学生のための国語表現という本を使って学んでいる。この本はピンクの表紙だ。

課題 C) 「平仮名を正しく」の頁を読みましょう。自分が日頃書いていた平仮名の形と異なる文字があったら、その平仮名のもとの漢字を解答欄に書きましょう。

課題 D) 今日の内容について自分が学んだことについて書きましょう。2段落目には、感想を書きましょう。(400字程度)

今日はここまでとします。また来週！

コメントの追加 [泉10]: 簡単だからこそよく読むようにします。間違えて書くことがないようにする必要があります。

コメントの追加 [泉11]: 何か所も抜けています。気をつけて読み、書き加えましょう。

コメントの追加 [泉12]: 書き加えたときに、行がずれることがあっても気にせず書き加えます。

コメントの追加 [泉13]: 毎年、1年生は平仮名の書き方を復習しました。半年でかなり上達した人もいます。今回は文字の添削はできませんので、自分で書く練習に励み、正しく書けるようにしましょう。
平仮名は文章の7割ほどを占めるので、平仮名が上達すると、全体が整って見えます。